

第14回 朝鮮文化とふれあうつどい&フリマ 11月25日(日) 府中公園にて



チマチョゴリ友の会が主催する秋の恒例イベントが今年も盛大に行われました。会場中央のところ狭しと並んだフリーマーケット、両ハッキョのオモニ会とニョメン、青商会と朝青メンバーによる飲食ブースにアボジ会のチョゴリ撮影

コーナーで賑わいました。ステージでは民族舞踊や音楽の公演、場内でも農学隊が練り歩きました。「在日1世と家族の肖像」写真も展示され、この日初めて参加しブース販売にも携わったある青商会メンバーは「ここはまるでウリナラですね♪」と感想をもらっていました。この日、撤収作業後の反省会にはアボジ会メンバーも参加、感想を述べあいながら、力を合わせて来年からもつどいを盛り上げていこうと親睦を深めました。

西東京支部 分会対抗 ソフトボール大会

11月11日(日) 朝大・第2グラウンドにて



5年ぶりの開催となった今大会。西東京各地域から計8チームが参加し熱戦を繰り広げました。前回優勝のウリ八王子チームには、先月行われた公開学習会に出演した飯田幸司さん(※別項参照)も助っ人として特別参加、攻守にわたる大活躍を見せて盛り上げてくれました。しかし健闘及ばず初戦敗退；…早めの焼肉を楽しみました。激戦を制し優勝に輝いたのは中部支部小川分会、準優勝はウリ支部を下した東部支部南分会でした。

朝鮮学校を支援する都民集会

あきらめず最後まで闘う!



〈保障されて然るべき朝鮮人として学ぶ権利〉
11月23日 九段下・日本教育会館一ツ橋ホール
朝鮮学校を潰そうとする政府による不条理な圧力にさらされながらともにした3年間の抵抗の歩みは、蓄積された屈辱や痛み、怒りは、私たち自身にとって、決して小さくない力となっていることを確信し、勇ましく思う。そして今日まで多くの人たちが数々の言葉を尽くして訴えてきたが、何度でも繰り返し言わせてもらおう。私たちが日本で朝鮮人として学ぶことは、保障されて然るべき疑いようの無い権利なのだ。

(*ブログ「日刊イオ」
<http://blog.goo.ne.jp/gekkan-io> から抜粋)
※ 集会の詳細は裏面に記載。

西東京の両ハッキョで秋のイベント盛大に開催!

第一ハッキョ(立川) ふれあひフェスタ2012 10月28日(日)

あいにくの雨に見舞われましたが、保護者、同胞らとともに支援団体「ウリの会」のメンバーはじめ市民ら600余名参加のもと、盛大に行われました。屋外舞台ではできなかったものの講堂に場を移し学生らの公演、お楽しみ抽選会も予定通り開催。オモニらによる飲食ブースとパザーは前日アボジらが設置したテントの下で、アボジ会名物の炭火焼肉も急遽テントを追加し無事に行えました。恒例となったチマチョゴリ撮影コーナーに同胞専門家による「タロット占い」ブースも登場。多くの人々が力を合わせて悪天候に打ち勝った、意義ある1日となりました。



第二ハッキョ(町田) ふれあひパザー 11月18日(日)

新校舎竣工(9月)後初の開催。晴天のなか保護者をはじめとする地域同胞らとともに、多くの近隣住民らで賑わいました。園児、生徒らによる舞踊、歌、民族楽器の演奏などのステージと、炭火焼肉やキムパブなどの多彩な飲食ブースにオリニコーナーなども用意された会場は、笑顔で溢れていました。



「なぜ、私たちは朝鮮学校を支援するようになったか」

「八王子市で朝鮮学校への助成金を実現する会」が主催した公開学習会に同胞、日本市民ら56名が参加した。八王子平和市民連絡会による秋の企画「八王子平和強化月間」の一環。同会では、一昨年にドキュメンタリー「ウリハッキョ」をはじめ4作品を上映した「映画で知ろう! 朝鮮学校」、昨年は強制連行の爪あとが残る浅川地下壕へのフィールドワークと歴史セミナーを催すなど、学校支援を軸に在日朝鮮人の権利擁護を訴えてきた。今回は「日本人だからこそ!」と朝鮮学校支援に取り組んでいる3名をゲストに招いて議論を交わした。「在特会」による京都朝鮮学校襲撃事件と、解放後半世紀以上に渡る民族教育の苦難の歩みを描いた映像を鑑賞した後、基調講演とパネルディスカッションが行われた。会場内には立川朝鮮学校の沿革をまとめた写真パネルも展示された。

※ 詳細は裏面に記載。

10月13日(土) 八王子労政会館にて



コッポンオリ 幼児教室

11月17日(土) ・第一ハッキョにて



西東京各支部の「オンマとオリニ」サークルが合同で行っている子育て支援企画の一環。今年最後のこの日も多くの就学前児童らがあつまり元気に学んで遊びました。絵本の読み聞かせに歌や踊り、宝探しゲームなど盛りだくさんの企画はすべてスタッフメンバーらが知恵を出し合い準備してきたもの。オリニらの歓声とオンマらの情熱と愛情あふれた素敵な1日でした。

ニョメン(女性同盟) 「在日朝鮮人ってどんなひと?」



11月17日(土) 国分寺・Lホール

三多摩日朝女性のつどいが主催した講演会。東京経済大学教授で「人権とマイノリティ」問題の専門家であり多数の著書でも知られる徐京植さんをお招きし表題についてお聞きしました。自身の体験に基いての「分裂を生きている人々、厳しい状況におかれている人々、'自分は何人だ'と常に問いかけている人々」との指摘にはじまり、日本社会に根深い排外主義、その中での在日朝鮮人としてのアイデンティティについて等を語られました。会場からもさまざまな質問が出され、活発な議論のなか深く考えさせられる講演会でした。

文化教室 今年度終了!

11月17日(土)、23日(金)

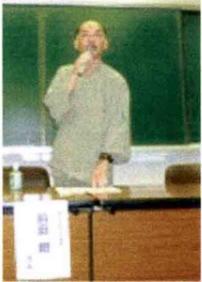


7月に開講した文化教室が第4回目をもって今年度を無事終了しました。まったくの未経験からはじまった「DECOクレイクラフト」でしたが、講師の金太順さんの親切丁寧かつ厳しい指導のもと、力を合わせて目標の「ウェルカムボード」を完成させることができました。12月2日のイベント終了後は支部会館で来客をお迎えすることに♪。乞うご期待を!
※この日はオリニらも参加し、オンマらに習ってそれぞれ、お花や可愛い動物などを作りました。

＜民族教育の権利を守るため共闘を！～幅広い団体、労組が結集＞

11月23日、「東京の朝鮮学校を支援する都民集会—朝鮮高校に『高校無償化』を即時適用させよう、東京都に『補助金』を従来どおり支給させよう—」（主催＝同実行委員会）が、東京・九段下にある日本教育会館一ツ橋ホールで行われた。祝日であったにも関わらず朝鮮学校関係者をはじめ、同胞、日本人の約600人（主催者発表）が詰め掛け、会場は満杯となった。集会では、田中宏・一橋大学名誉教授が「朝鮮学校支援の必要性と差別の構造 - 歴史の逆行は許されない」という題目で基調講演を行った後、朝鮮学校生徒や保護者、卒業生、日本の支援者らが登壇して活動を報告し、それぞれの思いを聴衆に訴えた。東京朝高3年の金志弘さんは「今日まで12年間、朝鮮学校で民族教育を受けてきて、僕は朝鮮人として学ぶことを誇りに思っています。しかし、民族の文化や言葉をもっと知りたいという僕たちの思い、声を、日本政府は政治や外交を理由に無視し続けています。当たり前のように差別がまかり通っている、不誠実で理不尽な社会を、僕は許すことができません。最後まで諦めずに闘っていきます」と話した。現在東京大学で学ぶ大阪朝高卒業生の申泰革さんは、「朝鮮学校に通うことはそんなにいけないことなのか。祖父母や両親たちが守り継いできたものを学ぶことはそんなにいけないことなのか。絶対に違います」と、憤りで語気を荒げた。南の支援団体で先日ソウル市でNPO法人認可された「モンダンヨンピル」共同代表からのビデオレターが紹介された後、東京朝高生徒らによる舞踊、声楽が披露され大きな拍手が送られた。集会では今後の行動計画として・無償化適用、補助金支給を求める文科省と都への要請・各地域での交流を共有と「コリアンデー(仮称)」設定、基金設立など都民の力を結集して支えることなどが示され、最後に「差別のない社会、人が人を尊重する社会を作る」ことなどが盛り込まれた決議が採択された。

☆ 基調講演 - 前田朗さん 東京造形大学教授。朝大非常勤講師(政経学部法律学科)



日本におけるヘイトクライムの状況と、それを克服する課題についてお話しする。94年「パチンコ疑惑」、98年「テポドン」騒動、02年「拉致」騒動、06年核開発騒動…ほぼ4年周期で「北朝鮮バッシング」が過熱し「差別のオリンピック」とも言われたが、今や「年中行事」と化してしまった。在日朝鮮人に対しては、「よくぞここまで思いつくな」と驚き呆れるほどに、次から次へと新たな差別を作り出してきている。とくに2010年3月以降、政府が毎日「朝鮮人は差別しても構わない」のだとメッセージを発している状況、これはまさに「差別のライセンス」と言える。東京、大阪をはじめとする自治体での朝鮮学校への補助金支給の停止、削減などの動きも、政府がお墨付きを与えているも同然と言える。実際に、桜井誠ら(在特会)は、『警察に守られながら』暴力行為を堂々と行って来た。京都での事件について、刑事裁判で有罪判決とはなったが(民事は継続中)、あくまでも「威力業務妨害」と「器物破損行為」としてであって、彼らの朝鮮学校、朝鮮人に対する聴くに堪えない差別発言、暴言そのものは、罪と認められ裁かれることにはならなかった。なぜこのようになってしまったのか?。「表現の自由」というものをはき違えているこの国と社会に問題がある。多くの日本人は理解していなが、ヘイトスピーチは世界では非常識で、それだけで即逮捕となるような罪である。しかし日本は、政府が、さらにはリベラルとされる憲法学者らでさえ、「差別発言も表現の自由だ」との誤った認識のため、これを取り締まる法=人種差別禁止法、ヘイトクライム禁止法自体がない。私は現在までに、50か国のヘイトクライム法の状況について調査を終えたが、ほとんどの国でヘイトクライム=犯罪というのは常識だと言える。パレスチナに対して過酷な差別、弾圧をしてきているあのイスラエルでさえも、国内でアラブ人への露骨な差別表現などを行えば罰せられる。日本社会は、「健全な表現の自由」とはなにか、真剣に問わなければならない。

☆ 飯田幸司さん(朝大ボクシング部コーチ)



元プロボクサー。現役時代、トランク스에「南北統一」の刺繍、入場曲に「アリラン」を選んでいただほど、日本人でありながら「朝鮮半島統一はを自身の夢」と語る。現役時代の自分のスタンスをさして「アイツはきつと在日だ」等との陰口を聞きもしたが、相手にしなかった。実力をつけて結果で自分をアピールすることに専念した。しかし、幼い頃から朝鮮問題に関心があったというわけではなく、そうだったきっかけは、学生時代に偶然父に連れられて訪れたソウルの独立記念館で、自国が過去に行った侵略の歴史を初めて知り、強い衝撃を受けた体験による。勿論、自分がやったわけではない、かと言って「知らなかった」では済まされないと、その日から日本と朝鮮半島をつなぐかけはしになりたいと誓った。歴史を一から学び直し、朝鮮学校はじめ在日朝鮮人社会に積極的に関わるようになり、その縁で朝大のコーチにもなれた。祖国分断という重い十字架を背負っているために、在日の方々はたくましく、発言に重みがあるのだと自分は思っている。「在特会」という連中が騒動を起こしているが、私の心にますます火をつけたので、むしろ彼らに感謝したいほど。当面の目標は自分が指導している朝大の学生から世界チャンピオンを出すこと。将来の夢は朝鮮の統一!。これは学生時代から変わらない。

☆ 松野哲二さん(チマチョゴリ友の会代表) この間の無償化適用を求める運動でも常に中心的役割を担っている。



98年に起きたチマチョゴリ女生徒への暴行事件に衝撃を受け、仲間と会を立ち上げた。多くの仲間とともに会も大きく成長し、当初かかってきた嫌がらせの電話なども今はほとんどなくなったが、ここまでの道のりは決して平たんではなかった。当初、何か力になりたいと学校に訪ねてゆくも、当事者の在日社会が身構えていて、すぐには受け入れられなかった。それほどまでに、迫害の中で日本社会への不信感が募っている現実を思い知った。また周囲から、「なぜ北朝鮮を支持するのか」との心ない声を聞くたびに、政府とマスコミが一体となったバッシングの影響の強さに愕然とした。そんな中でも一人ずつ仲間を増やし、キムチ販売(利益は西東京の両学校にカンパ)、ハングル講座、にゅーず発行、そして府中公園で盛大に行う朝鮮文化とふれあうつどい&フリーマーケットの開催(今年で14回目)などを地道に行ってきた。自分の活動スタンスは、政治的な立場ではない。そこにいじめられている子供らがあり、それを見て見ぬふりする日本人がいるから。これは日本社会の、日本人自身の問題だと常に主張してきた。当面は、朝鮮学校支援が日本社会の問題という認識をもっと広めて行きたい。将来の夢は友の会の解散!。即ち、朝鮮人が朝鮮人として堂々と生きられるのが当たり前である社会を実現したい。

＜ご案内～年内の主な予定、催し＞

- ☆ 12/8(土) 西東京商工会主催「新たな在留管理制度と在日コリアンの相続対策」
 - 13:30~16:30(受付:13:00~) / 多摩社会教育会館・鑑賞室
 - 資料代: ¥1,000 / 懇親会: ¥1,000
 - 講師: 金静寅(NPO法人同胞法律生活センター事務局長)、朴周賢(西東京商工会副理事長)
- ☆ 12/9(日) 第2分会・同胞忘年会
 - PM5:30~8:00 / のみくい処「魚民」高幡不動駅前店 - 男性: ¥2,500 / 女性: ¥2,000 / 夫婦同伴: ¥4,000
- ☆ 12/15(土) 第1分会・同胞忘年会
 - PM6:00~8:00 / 中国居酒屋「福記飯店」八王子駅南口 - 男性: ¥2,000 / 女性: ¥1,500
- ☆ 12/23(日) 西東京子育て支援特別企画「集まれ! コッポンオリフェスタ」
 - 11:00~14:30(10:15受付開始) / 西東京第1ハッキョ・講堂、教室
 - 幼児、小学生まで無料 / 大人(中学生以上) ¥1,000
 - みんなで楽しくリトミック、ワークショップ、ミニコンサート等。